

## 令和2年度 大阪府立交野支援学校四條畷校 第3回学校運営協議会 報告

1. 日時・場所	令和3年2月15日(月)10:30～11:45 交野支援学校四條畷校・会議室	
2. 出席者	<b>【学校協議会委員】</b>	
	高塚 良則	元大阪府立学校長
	田中 彰	四條畷市砂自治会長
	杉本 匡子	(社)るうてるホーム通所事業部長 *
	加藤 美朗	関西福祉科学大学准教授
	北口 信二	北河内東障害者就労・生活支援センター長 *
	小川 弘子	大阪府立交野支援学校四條畷校 PTA 会長
	<b>【事務局】</b>	
	武田 幸造	准校長
	野村 佳津	教頭
	香西 朝夫	課長補佐
	溝部 晃輔	首席・中学部主事
	村上 智則	首席・高等部主事
	傍聴希望募らず(新型コロナウイルス感染症対策) * 欠席	
3. 次第	(1)准校長あいさつ (2)令和2年度学校教育自己診断アンケート結果及び分析について (3)「令和2年度学校経営計画及び学校評価」自己評価について (4)「令和3年度学校経営計画及び学校評価」(案)について (5)その他	
4. 報告	(准校長あいさつにて) ・新教頭(野村教頭)の紹介 ・緊急事態宣言下での交野支援学校四條畷校での教育活動及び学校行事について	
5. 議事	<b>「令和2年度学校教育自己診断アンケート」結果及び分析について</b> 課題の教職員アンケート回収率は、実質100%となった。生徒アンケート・保護者アンケート・教員アンケートともいづれも肯定評価は高いものの、次年度に向け細かく見ていく必要あり。 生徒アンケートは、生徒が答えにくい設問になっていないか検証すべきという指摘があったため、「未記入」も全体数に入れ、「わからない」「未記入」が多かった設問に注目した。 生徒アンケートで課題が見えたのは、Q4「生徒の人権、安心安全な学校生活」、Q8「進路学習」、Q9「主権者教育」、Q10「自立に向けての意欲」の4項目。なかでもQ4とQ8では中高で20ポイント開きがあった。キャリア教育の視点を持って、生徒にしっかりと狙いを伝えながら一貫した教育に当たる必要がある。 保護者アンケートでは、「学校との連携」で高い評価をいただいた。課題は、Q10「教職員の専門性」、Q11「教職員の人権尊重の姿勢」、Q12「ICT・視覚支援を活用した授業」、Q21「施設設備への満足度」、Q24「ホームページ」。Q10とQ11は、「わからない」「未記入」が1割程度あり、学校側の意図が伝わっていない表れと捉えている。ICT活用は、生徒に活用スキルをつける学習活動を行っていく必要あり。参観機会も少なかったことも一つの要因だが、個別の教育支援計画を通して、しっかりと取り組みや様子を保護者に伝えていきたい。 生徒用・保護者用と同趣旨の設問で、教員の肯定的評価が10ポイント程度高いものも課題である。教員同士が授業を見合う機会が少ないことが、客観的指標を持ちにくい要因であり、ズレに繋がったとみている。教員が保護者・生徒からどう見られているか、意識する必要がある。	

**「令和2年度学校経営計画及び学校評価」自己評価について**

未達成項目(△)が多かったが、コロナ禍で対外的取組みができなかったことも大きかった。

キャリア教育の充実では、キャリアプランニングマトリクスは作成できず。国事業を受託し、プロジェクトチーム(PT)を立ち上げ、キャリア教育の方向性はある程度固まった。教員研修も実施。次年度以降、PTを中心に具体的取組みを進める。生徒中心の活動は、生徒発案の取組みや、高校との交流での新たな試みがあり、次年度へ引き継ぐ。

安全安心な学校づくりでは、ヒヤリハットの共有意識が高まり、アンケートでは9割を超える肯定的評価だった。個人情報誤配付は「0」。デジタル情報の管理も保管庫設置、ルールの徹底を強化。GIGA スクール構想で、生徒のICT機器使用機会も多くなるため、一層徹底していく。

教員の専門性向上では、首席・管理職の授業見学・アドバイス等で対応しているがやはり限界あり。教員相互の授業見学も活発でなかった。授業見学週間等の設定も効果は限定的なため、令和3年度、新たな取組みをしていきたい。教員のICT活用に加え、生徒がICTをよりよく使えるための授業について取り組んでいきたい。

開かれた学校づくりでは、コロナ禍でもリーディングスタッフが活発に動き、訪問相談等これまで以上の実績があった。地域支援がすいぶん地域に根付いてきた。HPについては課題が大きい。システムがCMSに変わることもあるので、この機会にリニューアルしていきたい。

学校組織づくりでは、「コロナ禍を理由にあきらめない」をモットーに、教員一丸で取り組んだ。次年度は、教員一人ひとりが学校経営に示す特色ある取組みへの積極参画が必要と考える。

**「令和3年度学校経営計画及び学校評価」(案)について**

「めざす学校像」「中期的目標」についての審議

基本的には、令和2年度の「めざす学校像」「中期的目標」を引き継ぐかたちで進める。

キャリア教育は、記載項目の順番をかえたが、取り組む内容に大きな変化はない。職業教育に限らず、国数はじめすべての教科・科目で系統性・継続性を意識し、中・高6年間の学校という特色を活かしていきたい。また、商業施設や畑、中小企業の多い地域性を生かし、地域との連携も進めたい。地域の協力いただきながら「外に出ていく学習活動」を強化したい。学校を知ってもらう・地域を知るという観点で、結びつきを強めていきたい。ダスキンとの連携による清掃活動の強化も進める。生徒主体の活動としては、学部、学年の活動や学部を越えた生徒同士の活動も充実させたい。(高の生徒が中の生徒に清掃の仕方を教える等)

安全安心な学校体制は、新型コロナウイルス対策を項目として追加した。

教員の専門性・指導力の向上は、授業力向上チームを新たに編成し、教員相互の授業見学や検証を行う予定。初任者による研究授業だけでなく、学校全体で研究授業の活性化を図る。ビデオ等の活用も検討する。初任者に対してはメンター制度を取り入れる。

地域連携やセンター的機能は、外部発信を大切にしていく。地域の要望に応えることも大事だが、学校として知ってほしいことをHPも活用しながら外部へ発信することも大切だと考える。

学校組織づくりは、働き方改革を進める。業務の平準化、会議の同日並行開催・精選などでゆとりある職場環境づくりを行い、教員が生徒や授業内容を話し合う時間を持てるようにする。

「R3学校教育計画」(案)に対し、委員からご意見等をいただいた後、全会一致で承認。

**委員よりの意見**

高塚会長：

- ・教員アンケート提出率が100%になったことは評価できる。継続するように。
- ・シラバスを意識し、一人ひとりの授業が学校として系統性・一貫性のある授業となるように。そのためにキャリアプランニングマトリクスのような指標は必要。また、個々の授業で生徒につけたい力をどう生徒本人・保護者に伝えるかも課題。連絡帳の活用方法を見直してはどうか。
- ・情報セキュリティは、否定的評価の教員がどこに課題ありとしているか検証する必要あり。
- ・ホームページは、役立つ、おもしろいという観点で工夫を。
- ・コロナ禍での学校からの情報発信は、大規模災害時にも活用できるか検討を。
- ・授業力向上チームの取組みは、見学後のフィードバックの方法に工夫が必要。

<p>加藤委員：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・大学での講義形式の変更(遠隔授業・オンデマンド授業)の紹介。学校での教員相互の授業見学に取り入れてみてはどうか。</li><li>・中高6年間の系統だった学習内容という部分については、令和4年度まで見据えて、シラバス作成に取り組んでもらいたい。</li></ul> <p>田中委員：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・学習の取組みだけでなく、生徒の心のケアに対する取組みも大切にしている部分を評価。</li><li>・今後も地域への発信を大切にしながら取り組んでほしい。</li><li>・「コミュニケーション力」、「自ら考えて行動する力」よりも前段階の生徒に基礎力をつけることが具体的にみえるようにしてあってもよいのではないか。</li></ul> <p>小川委員：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・普段の教員のあたたかい関わりがうれしい。</li><li>・地域の支援教育力(小中連携、校内連携)をあげるための研修等をのぞむ。</li><li>・「ともに育つ」観点から、地域の学校と支援学校の生徒同士の交流も力を入れてほしい。</li><li>・働き方改革は、子どもにも影響がある。教員がゆとりを持って、子どもの新たな魅力を発見し、力を引き出せるようにして行ってほしい。</li></ul>
<p><b>その他</b></p> <p>今年度の運営協議会については終了。 次年度についてはあらためて連絡する。</p>